

# 令和7年度 学校関係者評価委員会 開催報告書

専門学校 岡山情報ビジネス学院

## I. 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的

専門学校岡山情報ビジネス学院の自己点検・自己評価の結果を、卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民等の学校関係者に報告し、ご助言・ご意見をいただくことで、自己評価結果の客観性を高め、学校運営の課題について継続的な改善を図っていく。

### 2. 学校関係者評価委員

名前	所属	区分	出欠
畑 嘉昭	株式会社トスコ 代表取締役社長	企業等委員 (IT)	出席
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	企業等委員 (保育)	出席
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	企業等委員 (会計)	出席
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	企業等委員 (ビジネス)	出席
山本 涉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 事務局長	企業等委員 (医療)	出席
豊田 東	バイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	企業等委員 (ホテル)	出席
高橋 京恵	株式会社 FIL DESIGN 代表取締役	企業等委員 (デザイン)	出席
北牧 涼輔	NAYUG 合同会社 代表社員	企業等委員 (ゲーム)	出席 (OnLine)
米谷 紀彦	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	企業等委員 (公務員)	出席
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	企業等委員 (留学生)	出席
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 DE 事業部 製造ソリューション部 部長	卒業生	出席 (OnLine)
藤田 直樹		保護者	出席 (OnLine)

### 3. 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日時 令和7年8月19日(火) 16時00分-17時30分

開催場所 専門学校 岡山情報ビジネス学院 9階会議室

## II. 学校関係者評価委員会報告

学校関係者評価委員の方々に、自己点検・評価報告書をもとにして、学校運営状況の説明報告を行った。

### 1. 重点項目について

- ・学生：主体性を培い、社会で必要とされる人物を育成する。
- ・教職員：各人を大切にし、モチベーションが上がる組織を構築する。
- ・企業：連携強化により実践スキルの向上を図る。
- ・収益：中長期的に収益性の改善につながる取り組みを行う。

### 2. 基準項目について

#### (1)基準1 教育目標

##### 【報告】

・本校の教育目標として、「現代社会・地元産業界のニーズを踏まえた人材育成」を目標に、資格・能力・知識に加え、その支えとなる社会常識やマナー等の『人間力』を高め、自立した社会人の育成に努める」という目標を掲げ、教育活動に邁進している。

・社会のニーズに応えるべく、14学科4コースを設置し、過去約13,000人以上の卒業生を輩出してきた。

・企業と連携をして、最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な教育に取り組む学科に対して認可される、文部科学大臣認定 職業実践専門課程の認可を受けている。

##### 【課題・今後に向けて】

・生成AIの進化を筆頭とした時代背景の変化により、社会で求められるスキルや人材像が変化していく。職業教育としてどの分野に力を入れていくか指針を固めていく必要がある。

⇒ 外部有識者(教育課程編成委員会等)との意見交換を通じて、各業界の動向の変化を把握し、変化に対応した学科編成およびカリキュラムを構築する。また、産学連携、企業連携を強化して、実践教育を強化する。

##### 【特筆事項】

・各学科、業界や高校生のニーズを汲み取り、学科再編を行っている。

大きな再編として、ホテル・ブライダル学科をホテル・ブライダル・観光学科に、公務員学科を公務員総合学科にリニューアルした。

##### 【委員からのご意見】

・スピード感と柔軟性を持つことができるのが、大学にない専門学校の強み。激動する社会環境の先を読むことに力を入れ、ニーズに即した教育カリキュラムの設定に尽力してほしい。

・学校にかかわるステークホルダーに向けて想いが強くあるのを感じる。

・明確な目標を示し、実践していると思う。成果に期待したい。

・時代に応じた学科編成の再構成は評価できるが、実践的な指導ができる人材の確保に課題を感じる。

・生成AIへの対応等、社会ニーズに柔軟に適應する姿勢を高く評価する。

・職業教育のどこに力を入れるかは、企業によって異なり、難しいものがある。基本的には、挨拶や元気さ等、原点としてきたことを大切にしていけばよい。

## (2)基準2 学校運営

### 【報告】

- ・「OICは教育を通して、OICに関係する全ての人たち(学生、企業、教職員ら全員)を幸せにすることを旨とする」という考えのもと、教職員が一丸となって理想を実現するために邁進した。
- ・運営組織として、教育DX、教育の質向上等の校務分掌を設定し、教職員全員が役割を担うことで、学校全体で教育活動を推進する体制を構築した。
- ・教職員の評価育成に向けて、隔週で教員研修を実施。授業改善研修や、セキュリティ研修、広報研修等、各分掌から主体的に研修内容を検討して全体に向けて発信した。

### 【課題・今後に向けて】

- ・教職員のスキルアップに向けた計画的な研修を実施して、業界の変化に対応できるスキルを身につける必要がある。

### 【委員からのご意見】

- ・2年間という短期間にカリキュラムやイベント、ボランティア、課題、試験等、やや詰め込み過ぎているのではないかと。正規社員と非常勤講師の意志疎通、カリキュラムの共有、進捗の確認、課題の共有ができていないか疑問を感じる。
- ・教職員の計画的な研修や個別能力開発については、改善の余地があり、今後の改善に期待する。
- ・教職員研修には、救命救急の講座があってもいい。
- ・教職員による不祥事が増えているように感じる。学校経営においても、継続的に健全なガバナンスの整備とメンテナンスをお願いしたい。

## (3)基準3 教育活動

### 【報告】

#### <目標の設定>

- ・学科が作成したカリキュラムマップに年次毎の到達目標と資格検定・科目を紐付けて表現し、オープンキャンパスの参加者に配布し、入学予定者に周知している。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを、業界のニーズや卒業後の理想の姿をイメージし、目標設定をするようにしている。
- ・学生の能力差を改善し、個々に合った目標設定が行え、意欲的に学習できるよう入学前プログラムを考案し、令和5年度より導入したAO入試の合格者を対象に実施した。プログラムを通じて、教師が出願者と接点を持つことから入学後の指導にもつなげやすい。

#### <教育方法・評価等>

- ・二極化する学生傾向を踏まえ、それぞれが今より成長できる環境を整えた。  
「学生会」の発足全体イベントの企画運営を通じて主体性や責任感を伸ばす。  
クラスに馴染めない学生には、メイトルームを一時的に使用し、段階を踏んでクラスに入れるようにした。
- ・カリキュラム編成について、各学科の外部関係者および業界有識者を招聘し、教育課程編成委員会を年2回実施。業界の求める人材像や職能について議論し、カリキュラムに反映している。

### 【課題・今後に向けて】

- ・授業評価について、期末終了時に学生に対してアンケートを実施。  
アンケート結果は集計して担当教員にフィードバックしている。課題として、フィードバック後にどのように改善を図っていくかは本人任せで、その場の注意に留まっていることが多い。具体的な改善に向けたアクションプランの策

定が必要だと考える。⇒教師の授業改善に向けた目標設定および、アクションプランを策定し、進捗状況をトラッキングして達成状況を確認する。

#### 【委員からのご意見】

- ・体系的なカリキュラムと実践教育は高く評価したい。
- ・今後、増加していくであろうクラスになじめない学生に対する対応は、教職員の負担増につながるのでは。
- ・卒業生の評価が学校評価につながる。教育内容の試行錯誤の努力はいつも感じるが、手を抜けないところなので頑張してほしい。

#### (4)基準4 学修成果・教育成果

##### 【報告】

###### <学修成果>

・学生状況の把握の対策として、中間地点での習熟度を確認するために中間試験や確認テストを実施し、期末試験までに理解度が追いつくように何度も進捗確認を行っている。その結果、期末試験で追試験になる学生は減少している。また、追試験の対象学生には補講期間を設け、履修漏れの学生を防ぐ対策を行う。

###### <教育成果>

・企業連携授業の取り組みを各学科で行っており、卒業研究では複数学科がコラボレーションして行うクロスエデュケーションを実施。単一学科では、難しい企画提案を行い、企業からも高い評価をいただいた。

###### <就職率>

・売り手市場の影響もあり、昨年を上回るペースで内定を獲得した。学生の状況として、受け身の姿勢、企業研究の不足、安易な企業選びといった課題が挙げられる。

⇒これらの課題に対しては、自ら行動する意欲を高める支援や、企業研究スキルの指導を通じて主体性を育むとともに、就職先選びの視野を広げるための価値観の理解や実地体験の機会を設けている。

・離職の理由を分析すると、詳細な理由の把握が難しいケースが多いことが大きな課題として浮かび上がった。

・「精神的不調」や「体調不良」等、健康・メンタル面の問題による退職が複数見られ、職場環境や自身の体調への適応に苦慮する学生が一定数存在することが分かる。また、家庭事情による離職や、「希望職種との不一致」「接客業への苦手意識」等、仕事内容とのミスマッチも複数報告されている。

・転職等前向きな理由も一部確認される一方で、「無断欠勤」等、就業意識の低さや職業人としての基本的な姿勢が問われるケースも少なくなかった。これらの傾向を踏まえ、入学段階からのキャリア意識の育成が重要と認識している。

##### 【課題・今後に向けて】

・自己理解や職業理解を深めるプログラムを充実させることで、希望職種や職場とのミスマッチを防ぐとともに、就職後の適応力を高めることが求められる。また、「報連相」や勤怠管理といった社会人基礎力を強化する指導の徹底や、企業との連携による定期的なフォロー体制の構築も重要である。

・離職の実態を的確に把握し、在学中から卒業まで一貫したキャリア支援を行うことが、学生一人ひとりの定着と職業的自立につながるものと考えられる。

・卒業後の支援体制を整備し、入社後1年以内の離職リスクが高い時期に対して継続的なフォローアップを行う必要がある。

###### <社会的評価>

企業アンケート結果

・総合評価は引き続き高水準を維持しており、特に業務に関する知識・理解やマナーにおいては良い評価が得られた。一方で、熱意・主体性、IT スキル、責任感・協調性といった実務遂行に直結する項目では評価の一部に下降傾向が見られる。「良い」と評価された割合は年々わずかに減少しており、企業から求められる基準に対応できるように指導を強化する必要がある。

#### 【委員からのご意見】

- ・学生の自己理解がどこまでできているだろうか。早期離職を防ぐため、客観的な自己分析を行う等、自分の得手不得手を理解し、コミュニケーション力等を強化してはどうか。
- ・税理士試験科目合格者が出たことは素晴らしいが、全員が目指す資格ではない。現在の学びが、社会につながっていることを実感できる授業が重要になると思う。学生の中に学ぶ内容には限界があり、社会に出てからも学び続ける姿勢を身につけてほしい。言葉ではなく、教師が学び続ける姿を通じて学生に伝えてほしい。
- ・早期離職を防ぐため、個別のキャリア支援等教員の働きかけの強化に期待する。

#### (5)基準5 学生支援

##### <中途退学への対応>

- ・通信制高校出身者の増加に伴い、毎日登校することが辛くなったり、クラスにいる事が苦しくなったりすることから欠席が続き、退学に至るケースが多くなってきていた。そこで、別教室(メイトルーム)を用意し、リモートで教室をつなぎ、授業を受けられる環境を整えた。メイトルームは、一時的な回避場所として学生に提供することで安心感を与え、ほとんどの学生が数日から数週間でクラスに戻り、結果的に退学に至っていない。
- ・退学届の理由は「進路変更」だが、担任及び責任者の所見では、怠惰から学習意欲低下につながり、結果として進路変更になるケースが多い。入学後から動機付けを行い、学習意欲につなげることが肝要である。
- ・退学防止の対応として、「連続欠席」や「無届欠席」等を早期にキャッチし、担任はもとより学科責任者や課長補佐等、多角的にガイダンスを行っている。また、欠席日数が増えた学生については、保護者との連携も密に行うことが退学者減少につながっている。
- ・昨年度の課題であった校友会(同窓会)は、活動に向けて本格着手した。卒業生の中から会長候補の人選を行う等、準備を進めている。

#### 【課題・今後に向けて】

- ・本校においても、リスキリングをはじめとした社会人向け教育のニーズが高まっている中で、柔軟な学びの環境整備が課題となっている。夜間・オンライン授業の導入や短期プログラムの開発等、社会人が通いやすい仕組みづくりを検討していく必要がある。今後も地域や企業と連携し、社会人のキャリア形成を支援する新たな教育の形を模索していく。

#### 【特記事項】

特になし

#### 【委員からのご意見】

- ・修学・就職・生活・経済的側面まで幅広く整備している点は高く評価する。卒業生支援の体系化や社会人向け学びの環境整備が今後の課題と思う。
- ・多様な学び方への対応や社会人のリスキリングへの対応に期待する。サイバーセキュリティや AI の実践について、短期の有料講座を企画してはどうか。
- ・多くの卒業生を輩出しているだけに、卒業生との連携を図ることができればよい。
- ・大学との差別化を図るためにも、充実したサポートに力を入れてほしい。

## (6)基準6 教育環境

### 【報告】

- ・例年と大きな変更は特になし。毎年5月に「私立専修学校報告表」において、土地・教室・実習室・管理教室の状況について報告し、岡山県からのチェックを受けている。
- ・インターンシップ(企業実習)も学生全員参加を義務付けており、企業の協力をいただきながら実施している。留学生に対してもお陰さまで実施できている。
- ・防災安全管理は、ビル管理会社と連携し、消防防災訓練は年2回実施し、設備の点検は業者や消防に依頼し法定点検を行ってもらっている。教員向け防災マニュアルをリニューアルしたため、今後の研修で周知していく。
- ・2024年11月に全学生対象で避難訓練(建物から待避)を行っている。全員避難に時間は20分ほど要している。今回は、避難経路や避難順番等も設定したものである。今後、自己判断で動けるような訓練にブラッシュアップしたい。

### 【課題・今後に向けて】

- ・本校は商業ビル内に校舎を構えており、不特定多数が入り出できる環境にある。そのため、学校と企業との運営上の違いから、防犯面において制限を受ける場面がある。
- ・特に12階ホールでは外部者との接触機会が多く、盗難や紛失といったリスクも常に存在する。施設管理に限界があることを踏まえ、防犯対策は学校側の管理体制だけでなく、学生一人ひとりの意識と行動によって支えられる必要がある。貴重品の自己管理や不審者への注意等、基本的な防犯行動を日常的に徹底させることが重要である。⇒今後もこのような立地特性を踏まえ、現実的かつ実効性のある防犯対策を講じながら、学校全体で安全意識の向上に努めていく。

### 【特記事項】

- ・防災・安全管理については、学校が単独ではなく、ビル管理会社と連携して行っている。

### 【委員からのご意見】

- ・施設・設備や防災・安全管理体制の整備状況は高く評価する。図書・備品管理の未整備やセキュリティ強化が課題としてあり、改善に期待する。
- ・セキュリティについては常に見直しが必要と思われる。

## (7)基準7 学生募集

### 【報告】

- ・オープンキャンパス全体の見直しを図っている。受験の早期化への対応も図りながら、教職員も広報研修の実施等で参加者の心を掴むヒアリング手法を学んでいる。

### 【課題・今後に向けて】

- ・高校生の認知拡大に向けてより早期のアプローチが必要である。

### 【委員からのご意見】

- ・少子化が進む中でいかに学生に選んでもらうかが課題だが、中長期的に魅力ある学校に整え、臨機応変に対策を講じる必要がある。
- ・学生募集は厳しい状況にあるが、模索しながらチャレンジする姿勢がうかがえる。
- ・少子化が進む中で、学生数を維持するためには質の維持が重要といえる。

## (8)基準8 教育の質の保証

### 【報告】

- ・毎年5月に「私立専修学校報告表」の提出があり、教職員の略歴を含めた教職員名簿の提出、法令で定められた義務項目の実施状況等、県への報告とチェックを受けている。
- ・各規程は学校運営での記載と同様、社労士の指導のもと運用している。

### 内部質保証に関する実施項目

- ・自己点検・評価 実施・公開
- ・学校関係者評価委員会 実施・公開
- ・教育課程編成委員会 実施・公開
- ・第4様式の情報公開
- ・文部科学省 職業実践専門課程認定
- ・厚生労働省 専門実践教育訓練給付指定講座認定
- ・第三者評価認定
- ・文部科学省 高等教育修学支援制度機関要件認定

### 【課題・今後に向けて】

- ・令和8年度からの単位制本格移行に備え、カリキュラムの再設計や授業コマ数の見直し、成績評価基準の整備が必要である。教職員への制度理解の浸透と学生への丁寧な説明も求められ、校内体制の整備を段階的に進める必要がある。

### 【特記事項】

- ・令和8年4月1日施行であるが、大学等と同様に単位制に卒業基準を定めることができる「学校教育法 第124条より」

### 【委員からのご意見】

- ・法令遵守や情報公開は適切と判断した。令和8年度からの単位制移行に向けたカリキュラムの再設計だけでなく、教職員に制度の理解を浸透させる必要がある。
- ・学校関係者評価委員会だけでなく、内部外部からの監査が求められる。

## (9)基準9 財務

### 【報告】

令和6年度財務諸表等(HP 公開)

<https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/info/03--new.pdf>

### 【課題・今後に向けて】

- ・既存の定員充足を目指すことが前提ではあるが、人口減少時代において学生の適正規模の検討、コスト意識を改善し、学科構成や人員配置を見直すことで学科群ごとに採算性を担保できる学科編成を構築する。

### 【委員からのご意見】

- ・人口が減少する中で、定員充足と規模の適正化が課題となっている。採算性確保のため学科や人員の再編に期待する。
- ・教育と経営の相反する理想を追い求める葛藤があると思うが、いずれかに偏らないようにしてほしい。
- ・受け入れる学生の多様化に伴い、対応が可能な専門性のある職員の配置を望みたい。

## (10)基準10 社会貢献・地域貢献

### 【報告】

・ボランティアや中高生向け講座の開設等について依頼があれば積極的に引き受けて実施している。積極的に学生側からもボランティア活動や地域貢献活動について考える土壌を育てていきたい。

### 【課題・今後に向けて】

次年度に向け、分掌として組織的にボランティアの計画立案及び説明を実施していく。学生会や様々な学科にも情報を共有し、考えや意見、立案を促す。

### 【委員からのご意見】

- ・社会に出る前に社会貢献の経験は非常に重要なため、積極的な参加を望みたい。
- ・立地を生かした岡山駅周辺のボランティア活動は、学生の教育だけでなく、学校評価においてもプラス効果だと思ふ。
- ・学科・クラス間でのボランティア参加の偏りを解消するため、情報共有の促進と活動活性化に期待する。
- ・CO2 削減をテーマにした講座もあればよい。

## (11)基準11 国際交流

### 【報告】

・コロナも一定の収まりを見せ、また、政策の影響もあり、国内の留学生数は増え続けている。当校の在籍数も23年度3名、24年度24名、25年度34名と伸びている。留学生のIT分野の人材育成に力を入れてきたが、今年度よりビジネス分野も学べる環境を整えた。

・日本人の学生減少に伴う補填という考え方ではなく、日本で働くビジネスパーソンを育てる意識を持ち責任を果たすべく、教育内容や就職支援体制の強化を図り、実践的なビジネススキルと日本での就労に必要な知識・マナーを身につけた人材を育成する。今後も産業界のニーズを踏まえ、より現場に即した教育を推進する。

### 【課題・今後に向けて】

・ビジネス分野の学びは今年度より始まったばかりのため、インターンシップ先や就職先の確保が今後の大きな課題である。地域企業との連携を深め、受け入れ先の開拓を進めるとともに、学生一人ひとりの適性に応じたキャリア支援体制を整えていく必要がある。

### 【特記事項】

特になし

### 【委員からのご意見】

- ・留学生の受入れと指導体制が整備され、日本人学生との交流も図られている点は高く評価する。就職先開拓に向けた地域企業との連携強化に期待する。
- ・日本の文化や思想の教育が必要であると思う。
- ・留学生との交流も頻繁にされており、今後も続けてほしい。